

主体的・対話的で深い学びや個別最適化を実現するICT機器の活用

1 研究のねらい

学校努力点テーマ設定の背景には、文部科学省が進めるGIGAスクール構想がある。国は、令和5年度までにこの事業を全国に広げる構想であったが、コロナウイルス感染防止のための休校措置により、リモート授業の推進の必要性が叫ばれ、そのスピードを加速させてきた。これを受け名古屋市では、令和3年度には、全校に教師用・児童用タブレットPCを設置することとした。本校は、名古屋市の先行導入校33校に選ばれ、令和2年12月にタブレットPCが配置され、他校より一足早く、授業等で活用する体制を整えてきている。

併せて名古屋市は、新学習指導要領の実施に伴い、「主体的・対話的で深い学び」や、「多様な子どもたちを誰一人残すことのない、公正に個別最適化された学び」を実現することを目指している。そこで、GIGAスクール構想によって新しく整備されたICT機器を効果的に活用することで、その実現につなげたい。タブレットPCを効果的に使えば、意見交換や交流、個に応じた学習が可能になる。また、字を書くことや発言することが難しい特別支援学級の児童の学習支援にも役立つと考える。

ICT機器の活用は、授業者にとっても初めての挑戦であり、まだまだ未知な部分が多い。その知識やスキルにも個人差が大きい。そこでまずは、どの教科のどんな学習にICT機器を使うことができるのか、どのように使うと効果的なのかを探ることから研究を始めたい。様々な学習場面でICT機器を活用し、その情報を共有することで効果的な使用法を見付け、活用の幅を広げていきたいと考える。

2 研究の具体化

「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適化」を実現するICT機器の活用を目指し、本研究を3か年の見通しをもって進めていこうと考える。取り組み1年目となる令和3年度は、職員全体でタブレットPCを授業に活用してみることで自体に重点を置く。そして、得た情報を共有することを大切にしたい。

そこで、以下の2点を重点に研究を進めたいと考える。

- ① 学年の発達段階に応じて、タブレットPCを活用した授業実践を行う。
- ② 実践で得た知識やスキルを全体で共有し、活用の幅を広げる。

【重点①について】

- 教科を問わず、タブレットPCを活用した授業実践を行う。具体的な活用には以下のようなことが考えられる。
 - ・ 50インチTVの活用（教師用タブレットの画像を映す等）
 - ・ 児童用タブレットPCの活用（インターネット、算数科デジタル教科書、ロイロノート等）

【重点②について】

- 可能な限り授業実践を参観したり、授業後に情報共有をしたりして、ICT機器の活用の幅を広げていくことができるようにする。

3 研究推進の組織

(1) 推進委員会

- ・ 研究計画の企画・立案
- ・ 研究会実施計画の立案
- ・ 研究に関する資料や情報の提供
- ・ 各組織間の連絡調整

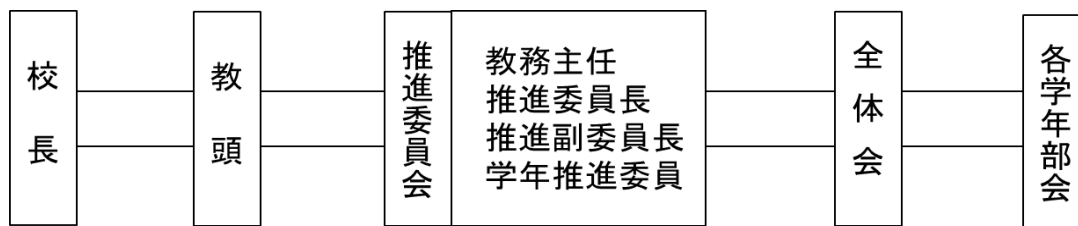
(2) 全体会

- ・ 各組織からの提案内容について協議・連絡を行い、研究主題の共通理解を図る。
- ・ 授業研究を行い、主題の研究を深め、指導内容の改善を図る。

(3) 学年部会

- ・ 推進委員会からの提案事項の検討
- ・ 年間指導計画の工夫
- ・ 指導方法の工夫
- ・ 授業研究指導案の作成

(4) 組織図



(5) 授業研究

- 前期（5月～9月）・後期（10月～2月）で各1名全体授業研究を実施する。全体授業者は低学年部会（1～3年）、高学年部会（4～6年）からそれぞれ1名を選出し、細案を作成する。事前検討会、事後検討会を全教員で行う。他の先生は、略案を作成し、同一学年の各学級で同一教材を用いて授業研究を行うことで、より良い授業作りを学年内で授業研究を行う。
- 指導案は、二日前（土日を除いて）までに、全教職員に配付する。

4 研究の予定

- (1) 組織確立（4～5月）
- (2) 前期全体授業（6月）
- (3) 中間報告会（9月）
- (4) 後期全体授業（10月）
- (5) 最終報告会（1月末）